

地域史料通信

第4号

2012. 10

昭和七年度土岐郡農會農産物販賣斡旋成績

品名	数量	金額	販賣先	生産町村
小麦	一五八九俵	八七九六	名古屋・神戸・半田等製粉會社	志岐津・曾木・下石・駄知・瑞浪
輸出博多百合	二〇六球	三八九四	横浜植木株式會社	多治見・瑞浪・土岐・大秋・日吉
富有柿	一〇〇箱	二〇〇〇	東京市場 其他	泉・明世・登戸・日吉・瑞津
茶種	九八〇	五三二九	大垣市製油所	望原・曾木・駄知・瑞浪・明世・瑞津
兔毛皮	七九九枚	四三三四	陸軍被服廠	土岐・登戸・日吉・泉
瑞浪製糖所扱	(二月至五月)	八三三三	瑞浪製糖所	多治見・曾木・瑞浪・瑞津・鶴里
一般農産物	(同上)	二五六八	土岐津驛前	登戸・大秋・明世・日吉・瑞津
計	三三八一	一八四八	駄知町	駄知・鶴里・曾木

昭和六年度郡農會農産物販賣斡旋成績

品名	数量	金額	販賣先	生産町村
輸出粟	一一箱	六五八三	相模製糖株式會社	望原・土岐・泉町
輸出糸瓜	二四一球	二五一八	横浜植木株式會社	日吉・瑞浪・土岐・明世・肥田
ビール麦	一三〇俵	四六五八	大日本ビール會社	望原・登戸・瑞津・明世・曾木
富有柿	五〇箱	一五〇〇	東京市場 其他	土岐・日吉・肥田村
瑞浪製糖所扱	(同上)	六四一九	瑞浪製糖所	望原・下石・鶴里・駄知・瑞浪
一般農産物	(同上)	二四九七	土岐津驛前	土岐・日吉・明世・村
駄知製糖所扱	(同上)	一〇二四	駄知町	泉・土岐津・肥田村
兔毛皮	九枚	五五	陸軍被服廠	市之倉・鶴里・曾木・肥田・瑞津
計	三三六	一三九	土岐郡農會	土岐・日吉・明世・泉・登戸・大秋・瑞津

(岐阜大学教育学部郷土博物館所蔵 博物館図書資料室諸資料B-3-24、以下、特に所蔵を明記していない史料は、教育学部郷土博物館所蔵のものです)

上の写真は、昭和6年・7年（1931・1932）の「土岐郡農會農産物販賣斡旋成績^{あっせん}」という史料です。これから、栗や糸瓜などの作物とともに「博多百合^{はちま}」の球根が北米へ輸出されていたことが確認できます。博多と言えば九州・福岡ですが、この時、なぜ「博多百合」が土岐郡で盛んに生産・輸出されていたのでしょうか？

※農会とは、農業の改良・発達を図ることを目的として、県・郡・市町村単位に組織された団体です。農会は、生産者と流通・加工業者などを仲介し、販売を促進する事業も行いました。

詳しくは4ページから

郷土博物館収蔵の写真資料	2
地域資料・情報センターの刊行物／活動余録	3
岐阜県特産、博多百合について—昭和初期の土岐郡を中心に—	4
交流コラム／地域資料・情報センターの活動／編集後記	8

郷土博物館収蔵の写真資料

昨年度（2011年度）は、今まで収蔵庫や資料室に眠っていた様々な史料の整理を行い、『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録（4）未報告諸資料・博物館関係資料目録』を刊行しました。それらの史料には、プリント写真やフィルム、ガラス乾板などの写真類が含まれていました。博物館第2収蔵室諸資料「う」のまとまりには、1940年代後半から1960年代にかけて岐阜大学の教官が撮影したと思われる、史料調査や旅行時のプリントやフィルムが残されていました。博物館第2収蔵室諸資料「え」の中には、明治末期以降と思われる岐阜県師範学校関係の台紙付写真や、昭和初期作成の岐阜県植物天然記念物写真アルバムなどがありました。また、博物館第2収蔵室諸資料「け」にはガラス乾板があり、御物石器（下記写真）や寺院風景、昭和初期の岐阜県の人口分布や岐阜県土地利用比較などの図表が焼き付けられていました。



ぎよぶつ
御物石器（明治時代に帝室に献上されたため、この名がある。飛騨地方で多く出土するが、その用途は不明）

プリント写真は1点ずつ中性紙製の厚紙に挟んだり、封筒に入れたりした後、中性紙製の文書箱に入れ保管しています。アルバムに貼り付けられている写真には、ページ間に中性紙を挟みました。ガラス乾板の場合は、専用の保存紙・保存箱を利用しました。フィルムはフィルム用のシートに入れ、中性紙製のバインダーを使用しました。

写真資料のうち、ネガとガラス乾板に関しては、保存・利用のためにデジタル化を行っております。写真については、現在デジタル化の作業を続けています。昨年刊行の目録では、写真1点1点のタイトルまでは付けられなかったため、細目録化の作業も進めております。博物館所蔵の写真類を調査されたい方は、どうぞご連絡ください。

◇参考図書：大林賢太郎『岩田書院ブックレット14 写真保存の実務』2010年、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『岩田書院ブックレット15 劣化する戦後写真』2009年など

◇史料の閲覧・利用：事前に郷土博物館（または地域資料・情報センター：裏表紙参照）までご連絡下さい。
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部本館5階 郷土博物館 TEL (058)293-2223 または (058)293-2209

写真紹介

これらの写真は、郡上市明宝地区の「寒水の掛踊」を撮影したものと思われ、関連するフィルムは13コマほど残されています。戦後のものと思われませんが、詳細は不明です。情報をお寄せください。



博物館第2収蔵室諸資料う-7-25-16



博物館第2収蔵室諸資料う-7-25-17

地域資料・情報センターの刊行物

- 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(1) 美濃国方県郡河渡村 村木家文書目録』
- 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(2) 美濃国方県郡木田村 山田家文書目録』
- 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(3) 美濃国武儀郡下有知村 山田家文書目録』
- 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(4) 未報告諸資料・博物館関係資料目録』
- 『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録別冊(1) 岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵 村絵図』
- 『岐阜大学地域科学部地域資料・情報センター 地域史料通信』 創刊号～第4号

※冊子での閲覧 … 岐阜県内の各図書館、岐阜県近接の県立図書館、全国の大学の日本史研究室など
※インターネットでの閲覧 … 岐阜大学機関リポジトリ (<http://repository.lib.gifu-u.ac.jp/>、岐阜大学図書館からリンクしています)
岐阜大学地域資料・情報センター HP (<http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/>)

活動余録

岐阜大学地域資料・情報センター運営委員（地域科学部准教授）

朴澤直秀

一点一点の史料はかけがえのない価値を持ち、それぞれから様々な内容を読み取ることができます。しかし、一点一点の史料に注目するだけでなく、その史料を含む史料のかたまり“史料群”にも注目する必要があります。一点一点の史料の内容は、史料群の他の史料と関連づけることによって深く理解することができます。また、史料群の特徴や構造を分析することによって、その史料群を残した組織体のありさまを、ある程度復元することも可能なのです。

史料の整理を行うと一例えば、段ボール箱などにガサッと入っていた史料を、一点一点番号をつけ、中性紙封筒に収めていったりすることにより結果的に、その史料群の構造・現状を破壊することになります。そのことは、遺跡の発掘調査すなわち遺跡の破壊である、ということに例えられます。ですから、発掘に際して調査報告が作られ、発掘前の状況を記録・公開するように、史料整理に際しても、史料群の現状の記録が行われます。

史料の現状記録にあたって、それを文字などで記録するだけでなく、写真を撮ります。調査者によっては、ビデオで封筒詰めの様子を記録していく場合もあります。本センターの郷土博物館史料の整理でも、現状記録を行い、デジタルカメラで



2011年度整理の博物館第2収蔵室諸資料い-2
(タンスの引き出し)の現状記録写真

現状の撮影を行っています。こういった場合、史料そのものの保存だけでなく、現状記録で新たに生じた文字データや画像データなどの保存をどうしていくか、ということが問題になります。文字データであれ画像データであれ、現在はそれらが電子データとして保存されることが一般的です。それらを、ハード・ソフトの両面で、いかに永続的かつ簡便に利用できるよう、管理・更新していくのか。本センターの場合、電子データの台帳整備を計画しています。また、データの管理に当たっては、作成当事者・管理者の記憶をいかに伝えていくか、ということも課題になります。史料そのものだけでなく、それに付随する諸情報をどのように永続的に伝えていく体制を作るか。史料保存・調査諸機関が、自覚的に取り組んでいくべき課題だといえるでしょう。

岐阜県特産、博多百合について—昭和初期の土岐郡を中心に—

博多百合とは？

表紙で取り上げた「博多百合」とは、どのようなユリなのでしょう？近年、大久保敬氏によって、このユリの伝来・名前の由来に関する論考が出されました。それによると、原産地は中国で、中国でユリといえば、博多百合を指すようです。その球根は、安土桃山時代以降に中国→朝鮮半島→博多へと伝わり、そこから日本国内に広まったのではないかとされます。江戸時代を通して博多百合は広く観賞されたようですが、現在の日本国内ではわずかしこ残されておりません。

(参考：大久保敬「ハカタユリ (*Lilium brownii* var. *colchesteri*) の我が国への伝来および名称の由来に関する考察」『九州大学大学院農学研究院学芸雑誌』61 (2)、2006年、「ハカタユリ (*Lilium brownii* var. *colchesteri*) の我が国への伝来および名称の由来に関する考察Ⅱ」『同上』63 (1)、2008年、ともに九州大学学術情報リポジトリ (<https://qir.kyusyu-u.ac.jp/dspace/>) にて閲覧可能)

このユリは、6月下旬から7月上旬にかけて、テッポウユリによく似た花を横向きに2～3輪咲かせます。開花後に花の色が黄から白へと変わることで、芳醇な香りがあることなどが、このユリの特徴としてあげられます。近年では福岡市植物園がその栽培に力をいれているようです。

岐阜県内の(旧)加茂・土岐・可児・恵那・揖斐・本巣郡では、昭和初期を中心に博多百合

が副業として栽培され、海外に輸出されていたことが記録に残されています。その後、瑞浪市内で栽培されていましたが、病気やイノシシの食害によって、その栽培が困難となってしまったようです。

土岐郡農会関係史料

地域資料・情報センターでは、教育学部郷土博物館に保管されている歴史史料の整理作業を行っております。昨年(2011年)は、これまで未報告・未公開であった史料を整理し、『岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵史料目録(4)未報告諸資料・博物館関係資料目録』を刊行しました。この時に、岐阜県東濃を中心とした地域の近代史料200点ほどを確認することができました。特に多く残されていたのは、恵那郡坂下町(中津川市)の兵事・教育・選挙に関連するもので、ほかに土岐郡明世村(瑞浪市)、土岐郡農会、土岐製糸場、婦人会に由来する史料もありました。表紙の史料は土岐郡農会関係のもので、その中には1931年(昭和6)から1943年にかけての記録が30点ほど残されていました。

表紙の史料は、1931年から1937年にかけての土岐郡農会の「農産物販売斡旋成績」および「計画表」などを綴っていた史料の一部分と考えられます(博物館図書資料室諸資料B-3-24)。この綴には「昭和六年度 郡農会農産物販売斡旋成績」をはじめとする、21点の史料が含ま



博多百合(花色が黄から白へと変化後のもの)



開花直後の博多百合(花色が黄色)
(ともに九州大学大学院農学研究院教授 大久保敬氏より提供)

表1 土岐郡農会博多百合販売斡旋成績（1931～1937・1939）

年代	数量	金額	販売先	主な生産町村
1931 (昭和6)	1,141 球	251 円 88 銭	横浜植木株式会社（北米へ） 及郡内へ	日吉、瑞浪、土岐、明世、肥田、笠原、駄知
1932 (昭和7)	2,006 球	389 円 40 銭	横浜植木株式会社（北米へ） 及郡内	多治見、瑞浪、土岐、大湫、日吉、明世、泉
1933 (昭和8)	2,719 球 (3,792 球)	555 円 00 銭 (608 円 68 銭)	—	多治見、駄知、瑞浪、稲津、土岐、釜戸、 大湫、日吉、明世
1934 (昭和9)	6,095 個	739 円 58 銭	横浜植木株式会社（北米） 及郡内外	大湫、釜戸、瑞浪、土岐、稲津、日吉、明世、 駄知、肥田、市之倉
1935 (昭和10)	— (5,379 球)	1,041 円 69 銭 (839 円 85 銭)	横浜、名古屋及郡内外	大湫、釜戸、土岐、瑞浪、日吉、明世、稲津、 多治見、曾木
1936 (昭和11)	7,752 球	1,416 円 52 銭	横浜植木株式会社	日吉、大湫、釜戸、土岐、瑞浪、明世
1937 (昭和12)	4,710 球	818 円 74 銭	横浜植木会社外	大湫、日吉、土岐、釜戸、瑞浪、明世、稲津
1939 (昭和14)	4,697 球	672 円 08 銭	—	瑞浪、稲津、土岐、釜戸、大湫、日吉、泉

（岐阜大学教育学部郷土博物館収蔵の博物館図書資料室諸資料B-3-24、B-3-28より作成）

まれていました。

また、「昭和十四年度 販売購買斡旋成績書」という史料にも、博多百合についての記述がありました（博物館図書資料室諸資料B-3-28）。これらの史料から、博多百合に関する記述を抜き出したものが、表1（上記）・表3（7頁）です。

土岐郡の輸出向け博多百合

表1に、土岐郡農会が斡旋販売した博多百合の球根の販売数量・金額・販売先・生産町村などを記しました。1931年当初は、販売数量1,141球、金額は251円88銭でした。その後、年々数量・金額は伸びて1936年には最高数量・金額となりますが、翌年以降は数量・金額ともに下落していきます。販売先の横浜植木株式会社は、今も園芸事業を扱う1890年以来の歴史を持つ会社です。この会社は園芸植物の輸出に深く関わっており、ユリの球根の貿易は主力の一つでした。表1の1931年から1939年までの8年間のうち、6か年以上、生産町村として挙げられているのは、日吉村・瑞浪町・土岐町・明世村・大湫村・釜戸村（すべて瑞浪市内）などです。以上の町村別の博多百合の生産数に関しては、表3（7頁）をご覧ください。

表3にあげたデータから、町村別に博多百合の球根の等級（球根の周囲寸法）ごとの販売数

表2 昭和初期の価格表

	品名	年代	単価	備考
1	そば（1杯）	1934～ 1935	10～13 銭	もりそば・ かけそば共
2	葉書（1枚）	1937	2 銭	
3	鉛筆（1本）	1935	3～5 銭	
4	運賃[名古屋～多治見間]	1934	58 銭	中央本線、 三等運賃
5	運賃[名古屋～瑞浪間]	1934	80 銭	中央本線、 三等運賃
6	運賃[長良～高富間]	1934	15 銭	名岐鉄道岐 阜線 (路面電車)

※1～3は週刊朝日編『値段史年表 明治・大正・昭和』1988年、朝日新聞社

※4～6は『時刻表復刻版 戦前・戦中編 [3] 汽車時間表』(昭和9年12月号)1978年、日本交通公社

量が判明します。その数が一番多い町村は大湫村で、次いで日吉村となります。この2か村での販売数は、土岐郡全体の70～90%を占めます。等級別では6寸球が一番多いのですが、1939年には5寸球・6寸球・7寸球の数量の差がわずかとなっています（1寸は約3cm）。博多百合の等級別の単価も表3にあげましたが、1933年度の単価が最も高値で、1935年度はすべての等級で5銭ずつ値が下がり、1939年度にはさらに下落しています。しかし、表2にあげた物価などから考えると、等級の高い博多百合についてはかなりの高値であったと思われます。

『岐阜県農会報』に見える博多百合

以上、郷土博物館収蔵の土岐郡農会関係史料で、博多百合の具体的な販売数・単価などを確認しましたが、その経緯に関しては、『岐阜県農会報』が参考となります（岡山大学附属図書館資源植物科学研究所分館、農林水産研究情報総合センター AgriKnowledge システムなどで閲覧可能）。

『岐阜県農会報』8巻6号～12号（1931年）には、「貿易農産物 輸出花百合の栽培」という記事が連載されました。8巻6号（7頁下段史料）では、農村を不況から脱出させる対策として、糸瓜へちまに次いで有望な貿易農産物の一つに花百合が上げられています。クリスマスやイースター（復活祭）でユリが大量に使われていたため、北米などに輸出されたのです。岐阜県内のユリとして、加茂・可児・土岐郡地方で栽培されていた博多百合があげられ、副業的農産物としての期待感が記されています。輸出業者の中に、先にあげた横浜植木株式会社が登場し、博多百合の買入価格は1928、1929年とも1球15銭～40銭見当とあります。鉄砲百合などの価格は、1球2銭～10銭ぐらいなので、博多百合が単価の高いユリであったことが判明します。

1931年には、岐阜県農会・郡農会の指導のもと、土岐郡と加茂郡に輸出百合生産組合が組

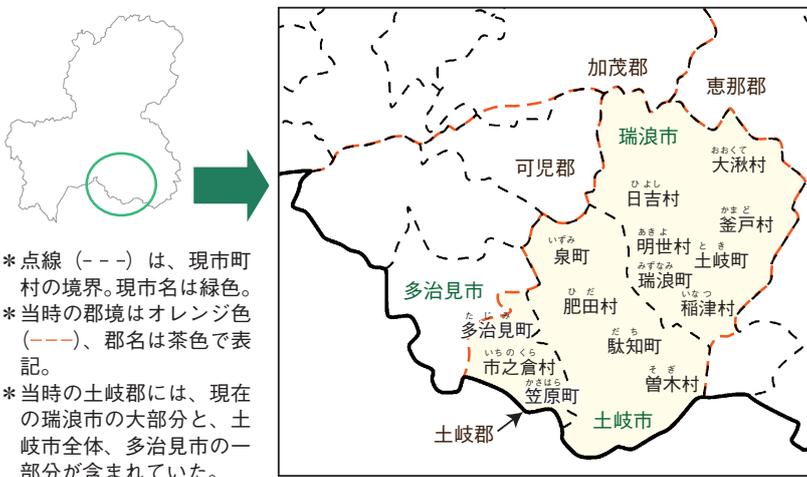
織され、採種園・品種試験地の設置、輸出百合の圃場、および球根の検査などを実施し、優良な球根の輸出に努



「土岐郡地方ニ於ケル花百合ノ出荷状況」
（岐阜県副業紹介所『岐阜県副業写真帖』
1935年、岐阜大学図書館所蔵）

めるようになります。土岐郡輸出百合生産組合の規約には、「輸出百合ハ本組合ノ検査合格品ニアラサレハ輸出又ハ販売スルコトヲ得サルモノトス」「輸出百合ハ凡ソ系統農会ノ斡旋ニヨリ輸出スルモノトス」など、計33か条が定められています（『岐阜県農会報』9巻3号、1932年）。生産組合の創立以前は、個人取引が中心であったため、出荷の統制が無く乱売の結果、価格が低落し生産量が激減したという記述もあります（『岐阜県農会報』9巻16号、1932年、『同』10巻9号、1933年）。

1930年ごろからの昭和恐慌により、全国的に農村は深刻な打撃を受けました。不況対策として農山漁村経済更生運動こうせいが展開していきましたが、岐阜県内では農村内の金融改善や、負債の整理、生産および生産品の合理化、生活改善などによる消費の合理化などが掲げられました。このような中で、博多百合などの生産に関わる輸出百合生産組合も創立されました。ただ、表3に見えるように博多百合の単価自体は下落していきます。博多百合の価格には何が関係しているのか、需要の推移や価格決定のありさま、全国的なユリ生産の動向など、さまざまな観点から見ていく必要があるようです。もちろん、生産地の動向が重要であることは言うまでもありません。



昭和初期、土岐郡内の博多百合生産町村

表3 土岐郡輸出向け博多百合 町村別販売成績表 (1933・1935・1939年度)

(単位はすべて球)

1933年度土岐郡輸出博多百合販売成績											
等級(単価)	町村名	瑞浪町	稲津村	土岐町	釜戸村	大湫村	日吉村	明世村	多治見町	駄知町	計
5寸6分(15銭)		38	8	75	33	250	270	36	1	6	717
		5円70銭	1円20銭	11円25銭	4円95銭	37円50銭	40円50銭	5円40銭	15銭	90銭	107円55銭
6寸(20銭)		112	17	104	86	503	373	64	16	13	1,288
		32円40銭	3円40銭	20円80銭	17円20銭	100円60銭	74円60銭	12円80銭	3円20銭	2円60銭	257円60銭
7寸(25銭)		50	4	41	27	266	100	23	19	1	531
		12円50銭	1円	10円25銭	6円75銭	66円50銭	25円	5円75銭	4円75銭	25銭	132円75銭
8寸(30銭)		9	3	7	8	76	33	9	5		150
		2円70銭	90銭	2円10銭	2円40銭	22円80銭	9円90銭	2円70銭	1円50銭		45円
9寸(35銭)		2			2	16	2				22
		70銭			70銭	5円60銭	70銭				7円70銭
1尺(40銭)					1	1	3	6			11
					40銭	40銭	1円20銭	2円40銭			4円40銭
合計	球数	211	32	227	157	1,112	781	138	41	20	2,719
	価格	44円	6円50銭	44円40銭	32円40銭	233円40銭	151円90銭	29円05銭	9円60銭	3円75銭	555円

1935年度土岐郡輸出花百合生産組合博多百合販売成績表											
等級(単価)	町村名	瑞浪町	稲津村	土岐町	釜戸村	大湫村	日吉村	明世村	多治見町	曾木村	計
5寸6分(10銭)		43	1	29	113	669	548	3	7		1,413
6寸(15銭)		134	18	114	175	1,002	935	78	13	1	2,470
7寸(20銭)		81	7	90	86	366	306	78	4	3	1,021
8寸(25銭)		38		56	23	131	100	43	1		392
9寸(30銭)		12		21	4	5	11	11			64
1尺(35銭)		3		10	2	3	1				19
合計	球数	311	26	320	403	2,176	1,901	213	25	4	5,379
	販売価格	54円75銭	4円20銭	61円80銭	62円40銭	325円70銭	284円90銭	41円65銭	3円70銭	75銭	839円85銭

1939年度輸出博多百合根販売幹旋成績									
等級(単価)	町村名	瑞浪町	稲津村	土岐町	釜戸村	大湫村	日吉村	泉町	合計
5寸(9銭)		11	22	8	102	930	453	17	1,543
6寸(14銭)		49	7	14	67	864	490	16	1,507
7寸(19銭)		105	2	11	65	843	448	20	1,494
8寸(24銭)		30	—	—	4	35	54	—	123
9寸(29銭)		9	—	—	—	7	10	—	27
1尺(34銭)		2	—	—	—	—	1	—	3
合計	数量	206	31	33	239	2,679	1,456	53	4,697
	金額	38円29銭	3円34銭	4円77銭	32円16銭	375円26銭	210円69銭	7円57銭	672円08銭

(博物館図書資料室諸資料B-3-24・B-3-28より作成。集計が合わない箇所もあるが、史料のまま表記した。)

「岐阜県農会報」八巻六号 一九三一年三月
貿易農産物 輸出花百合の栽培 (一)
本会 (岐阜県農会)

近時農産物価格の惨落著しく農家経済は極端なる窮迫を告ぐるに至りたるを以て農業経営の合理化により農村を不況より脱出せしむるは最も緊急事である。本会は之が一方策として貿易農産物の栽培研究により新資源を開発すべく既に糸瓜の栽培を奨励しつつ、あるが輸出用花百合は之に次ぎ有望と認むべきものである、而して花百合は我国貿易農産物中茶に次ぐ重要輸出品にして世界唯一の産地として毎年北米を初め各国に輸出し昭和四年は約三百万円に達して居る。本県は其栽培極めて少く僅かに加茂、可児、土岐郡地方に鉄砲百合の博多百合があるが其品位優良にして同地方の特産品種なるを以て副業的農産物として之を生産するは極めて有望である現在其作付面積は三郡を通じ千数百歩に過ぎざれ共輸出入関係より推察するに尚数倍の増加は可能であると思はれるを以て同地方を中心として普及の見込がある。(中略)

一、種類 (中略)

(一) 鉄砲百合族

1、黒軸鉄砲百合 (中略)

2、鳥鉄砲百合 (中略)

3、博多百合 花は前二種に似て居るが特に芳香高く本県特産品種にして其生産額他品種に比し僅少にて相当増産するも販路に不安無き様である (以下、省略)

(岡山大学附属図書館
資源植物科学研究所分館所蔵)

交流コラム～現場から～

《池田町史料室から》

池田町には現在のところ、博物館や歴史民俗資料館といった独立した施設はありません。池田町中央公民館の一角に設けられた「史料室」を、郷土の歴史を紹介する展示場所としています。わずかなスペースですが、考古遺物を中心とした常設展示の他に、年に2回ほど小さな企画展を行って新しい史料を紹介しています。企画展では、考古遺物以外の古文書や民俗資料などを積極的に用いて、多くの人に何度も足を運んでいただけるような情報発信に努めています。



文化財整理調査室

史料の整理、調査、保管は、別の場所で行っています。もと中学校の柔剣道場だった建物を文化財の整理調査室として改築し、現在、考古遺物を主に扱う人と、古文書を主に扱う人のふたりが整理や調査に携わっています。調査室には、日々発掘での出土品や寄贈された古文書ほか、特定の調査のために借用した品など、様々な史料が運び込まれます。考古遺物は洗浄からナンバリング、接合、復元、実測など、古文書は分類、目録作成、解読などの作業を行います。

郷土の財産であるこれら貴重な史料を丁寧に整理、調査して、中央公民館の史料室でその成果を公開活用できるよう、地道ですが着実な仕事を心がけて取り組んでいます。

〒503-2492 揖斐郡池田町六之井 1455-1 池田町中央公民館内 池田町史料室
問い合わせ先：池田町教育委員会社会教育課（担当：横幕）0585 - 45 - 3111（内線 176）

※「交流コラム～現場から～」では、岐阜県に関わる史料の編纂・保存事業や史料展示などの情報を掲載していきます。皆様からの情報をお待ちしています。

地域資料・情報センターの活動

センターでは、岐阜県内の様々な行政情報などを収集・整理し、大学内の研究活動をサポートしています。資料は岐阜県の旧市町村毎に分類し、利用に供しています。収集資料の目録は教育学部郷土博物館収蔵資料目録の一部とともに、インターネット上で検索可能となっています。現在は、長良川河口堰関係の過去の資料の整理を行っております。活動の詳細は、下記のホームページをご参照ください。

編集後記

本号では、昭和初期の博多百合輸出関連の史料について紹介しました。近現代史料の整理も進めておりますので、どうぞご活用ください。今回は、九州大学大学院農学研究院園芸学研究室の大久保敬教授、揖斐郡池田町教育委員会社会教育課の方々からご協力を賜りました。皆様、本当にありがとうございました。今後も、様々な史料の整理に努力していきたいと思っております。（中尾喜代美）

岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター 地域史料通信 第4号

発行日 2012年10月31日 年1回刊行（予定）

編集・発行 岐阜大学 地域科学部 地域資料・情報センター

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 Tel (058)293-2312 または 3323

Fax (058)293-3324 <http://rilc.forest.gifu-u.ac.jp/> E-mail : archives@gifu-u.ac.jp